



# 金城学院大学で第一回ホームカミングデイ開催

## Ⅰ 大学に集う150名を超える卒業生

10月8日、大学が主催するはじめてのホームカミングデイが開催されました。かつての学び舎を懐かしむ声に包



産学連携による開発商品を展示販売するブース

まれてはじまった歓迎セレモニーでは、参加した卒業生全員で讃美歌と校歌を歌いました。そして再び集えた喜びを分かち合いました。

会場では学生が企業と連携し、企画・開発に携わった商品の紹介や販売も行われ、各ブースとも大盛況。学生たちの活躍に訪れた卒業生からは応援の声が上がっていました。



こうした声を受け戸菊創理事長は「金城学院全体で卒業生は90,830名にもものぼります。社会で活躍を続けられている卒業生を迎えることで、大学も活性化していったほしい」と挨拶。参加した卒業生は母校で思い思いの時間を過ごしました。

## Ⅱ ホームカミングデイコンサートやキャンパスツアーも開催

用意された軽食を囲み、懐かしい思い出を語り合ったあとは、現在の大学を知っていただくためのさまざまなプログラムへ参加。エラ・ヒューストン記念礼拝堂ではホームカミングデイコンサートが開催されました。

新しい礼拝堂に感動の一同。ハンドベルクワイアによる見事な演奏や、文学部音楽芸術学科ヴォーカルアンサン



ホームカミングデイコンサートの様子



卒業生を案内する文学部2年の吉野美紀さん  
ブル「リリー・ミュージズ」の透き通った歌声にみな聞き入っていました。

キャンパスツアーでは学生がアテンドし、新しく竣工したN1・N2棟やW3棟、アニー・ランドルフ記念講堂などを歩き、建物が持つ役割や学生の活動などを紹介しました。途中、卒業生が話す40年前の寮や講堂などの思い出に、案内役の在学生在が伝統を感じ驚く場面もありました。

小学4年生のお嬢さまとともに訪れた加藤清乃さんは、自分が学んだ場所を見てほしい、そしていずれ金城学院大学で学んでほしいという思いで参加。お嬢さまも大好きな音楽を学ぶことができる環境に大満足の様子でした。

## ホームカミングデイ開催を終えて

金城学院大学 学長  
奥村隆平

みなさま幸せそうな表情で、ご満足いただけて安心しました。これを機に多くの卒業



生を再びお迎えできるよう、来年以降も継続した開催を予定しています。

ハンドベルの体験イベントでは、みなさまが積極的に壇上に上がる姿を見て、物怖じしない明るさの中に金城学院らしさを感じることができました。また新しくなった建物とともに、「頑張っている今の大学の姿」を見ていただけてとても良かったと思います。大学が頑張っていればそれを誇りに卒業生も頑張ることができます。その責任を重く捉えながら、卒業生が気軽に足を運ぶことができる開かれた大学づくりにこれからも取り組んで参ります。

※ホームカミングデイは「みどり野会」維持会員、入学後25年、45年の卒業生を対象に開催しました。来年以降も開催を予定しておりますので、ぜひお誘いあわせの上、ご参加ください。

# 子どもを取り巻く変化に対応する幼稚園へ

## I 「2歳児園庭開放デー」に多くの子どもたちが参加

幼稚園では子育て支援活動として、在園児を対象とした「預かり保育」や入園前の2歳児を対象とした「2歳児プレ幼稚園」、保護者と一緒に園庭を創り上げていく「園庭ワーク」などを行ってきました。そして今年、新たな子育て支援活動として、「2歳児園庭開放デー」を実施。幼稚園が夏休みに入った7月と8月に三回行い、各回20組の親子を募集、のべ60組の親子が来園しました。

夏の暑い時期ということもあって、園庭にはビニールプールも用意。子どもたちは水着に着替えて水遊びや



ウォータースライダー、泥んこ、と思いに遊んでいました。特にいつも幼稚園の子どもたちが滑っているウォータースライダーに「やりたいやりたい！」と目をキラキラさせながら滑りに行く姿が印象的でした。また「滑ってみたいけれど、怖そうだなあ…」という子どももいましたが、保育者とともに滑った後に「もう一回！」と急ぐようにして順番待ちの列の後ろに並ぶ子どもも多く見られました。

この2歳児園庭開放デーで出会って、仲良くなった子どもたちの姿も見られました。「これ、使う？使いたい？」と

玩具の貸し借りをしている子どもたちや、広い園庭を元気いっぱい走る姿も印象的でした。

少ない人数での開催だったこともあり、保護者の方からも「安心して遊べる」「公園や家では、ここまでの泥んこはできない」と好評の中での終了となりました。家族の在り方という環境の変化だけでなく、昨今の住宅事情や治安や衛生上の問題から子どもたちの遊び場という物的環境の変化を感じます。そのようなめぐるしい環境の変化の中、今後の幼稚園としての在り方もさらに模索していきます。



## I 「満3歳児保育」を新たにスタート

2017年度より満3歳児保育をスタートします。保育園では2歳児として受け入れている満3歳の誕生日を迎えた日から入園し保育を受けることができます。この時期は子どもの個体差が著しく生活習慣の自立も個人差がとても大きいので、丁寧にかかわる必要のある大切な時期でもあります。

クラスは12人定員の満3歳児のみの少人数で編成。一斉入園ではなく満3歳の日から社会生活をはじめる

ことが出来るため、子どもが無理なくゆっくりと社会生活に慣れていくことができます。年少児になるときは4月生まれの子と3月生まれの子の間にはまだまだ心身ともに大きな発達の差がありますが、一人ひとりの違いを受け入れつつ、縦割り混合クラスの中で生活します。今後満3歳児クラスに使用するためになくなる「絵本の部屋」を惜しみつつも、その引越しを子どもたちが率先して行ってくれた

ことに、頼もしさと優しさを感じられました。本園が実施している3歳児・4歳児・5歳児と一緒に生活する縦割り保育の中で、満3歳児保育がはじまることにより、さらにより影響を与え合うことと期待しています。またこうした新しい取り組みの中でも絶えず何が誠に子どもたちの幸せとなるのかを祈り求めつつ検証し、子育て世代に発信し続ける幼稚園であり続けたいと願っています。



# 仲間とともに英語での研究発表を体験 視野を広げ、科学の楽しさを実感

## 日英ヤング・サイエンティスト・ワークショップに参加 UK-Japan Young Scientist Workshops.

去る7月31日から8月6日まで、高校3年の平林茉莉亜さん、酒井理紗さん、2年の大久保美卯さん、1年の鈴木暖生さんが「日英ヤング・サイエンティスト・ワークショップ」に参加。さまざまなテーマのワークショップでディスカッションや研究、発表を行いました。

これは日本とイギリスの高校生を対象に、科学を学び、科学知識を応用することにチャレンジする機会を提供するために英国のクリフトン科学財団が約10年前から行っているものです。今回は「女性研究者の育成」がテーマ。平林さんら4人を含む全国の高校生16人とイギリスの高校生16人が参加し、名古屋大学で行われました。

英語でのワークショップということで、事前にファーザーズ先生の指導の下、英語でのディスカッションを練習して当日を迎えました。平林さんは教育発達科学、酒井さんは生命農学、大久保さんは保健学、鈴木さんは医学系とそれぞれ異なるワークショップに分かれ、活動しました。



「最初は言葉の壁があって大変でした」とみなさん口をそろえます。しかし同じチームの仲間助けられたとも。「イギリス人のチームメイトと意見が食



左から平林さん(3年生)、酒井さん(3年生)、柳瀬先生、大久保さん(2年生)、鈴木さん(1年生)



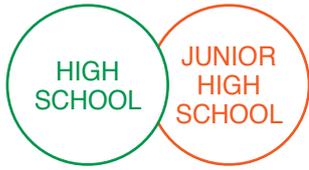
い違ったこともありましたが、頑張っ自分の意見を伝え、理解してもらいました」と話す酒井さん。また大久保さんも「研究は難しかったけれど、英語が得意な仲間に助けってもらいながら頑張りました」と話します。また平林さんは「世界を舞台に経験をしている仲間の話を聞き、自分ももっと多くの経験をして強い意志を持つ人になりたいと思いました」といい、鈴木さんは「違う地域から来た同世代の人たちと触れ合って視野が広がりました」とも。今までにない経験を通して、自分自身の成長を感じることができたようです。

ワークショップの最後は各チームが

研究の成果を発表しました。「準備は大変でしたが、グループ全員でまとめることができよかったです」と4人とも達成感を感じ、終えることができました。

今回、指導にあられた柳瀬公代先生は「他校やイギリスの生徒と一緒に問題解決をすることは刺激になったと思います。また“使うための生きた英語”を学ぶことができたと思います」といい、「4人にとってこの体験は一生の宝物になったことでしょう」と話します。かけがえのない体験で視野と可能性を広げられた4人の6日間の成果は、2月22日のディグニティ学年プレゼンテーションで発表される予定です。





# 中学、高校のハーブアンサンブル部に 新しいハーブ全20台が寄贈される

## さらに美しくなった音色で練習もより意欲的に

今年3月、中学校と高校のハーブアンサンブル部に、銀座十字屋の中村会長から新しいハーブが寄贈されました。「古いハーブは創部以来40年余にわ

たって大切に使われてきましたが、だんだん音程が定まらなくなってきていました」とハーブアンサンブル部のコーチをされている三宅百合子さん



は話します。「もともと聖書を販売されていた銀座十字屋様が金城学院のキリスト教教育に共感してくださり、今回の寄贈の運びとなったのです」。

中学校に11台、高校に9台寄贈された新し



いハーブに生徒たちも「音が明るくなって嬉しい」「運びやすくなった」と大喜び。合同演奏のイベントに向けて練習を行っています。また「いろいろな場所で、多くの人に聴いてもらいたい」「中学、高校の合同演奏をもっとたくさん行いたい」と意欲的に。新しいハーブとともにさらに練習に励んでいきます。



# 中学3年の本多夏さんが 背泳ぎで全国大会に出場!

## 愛知県大会、東海大会では好タイムで見事1位に

去る8月17日～19日に新潟県長岡市で行われた「全国中学校水泳競技大会」に、中学3年の本多夏さんが背泳ぎで出場。1分6秒34の記録を出しました。

全国大会へ出場するためには、県大会で規定の記録を突破する必要があります。本多さんは7月に行われた「第70回愛知県中学校総合体育大会」で自己ベストとなる1分5秒36を出して見事1位に。また8月に行われた「第38回東海中学校総合体育大会」でも、1分6秒28で1位に輝きました。



幼稚園のころから、お父さんについて水泳を習ったという本多さん。はじめはバタフライでしたが、中学2年から背泳ぎに転向しました。いつもは中学の水泳部で2km泳いでから、水泳クラブで約7km泳ぐといます。「ときにはタイムが伸びずに悩むこともあります

が、コーチに相談して気分を変えて、1本1本集中して泳ぎます」と話します。

「ベストタイムが出たときは本当に嬉しいです。もっとうまくなりたいから頑張りたいと思っています」と週に6日は泳いでいるそうです。また自己管理もしっかりと行い、水泳だけではなく、勉強も頑張っています。今後の目標は11月12日に行われる東海選手権水泳競技大会で1位を獲得することが目標。「愛知県の代表として貢献できるように頑張りたい」と意気込みを話す本多さんの活躍を期待します。

